

報道関係者各位  
プレスリリース

2016 年 7 月 5 日

株式会社 F F R I



---

**学校法人 青山学院が F F R I の標的型攻撃対策ソフト「FFR yarai」を採用  
～未知の脅威を検知・防御するソリューションとして事務システム全端末に導入～**

---

サイバーセキュリティ領域において国内で独自の研究開発活動を展開している株式会社 F F R I（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：鵜飼裕司、以下 F F R I）は、標的型攻撃対策ソフト「FFR yarai」が学校法人青山学院（東京都渋谷区、理事長：堀田 宣彌）に採用されたことをご報告いたします。

昨年、日本年金機構等の公的機関や他大学において標的型攻撃による情報漏洩が発生したことから、青山学院では教育機関も狙われていることを改めて意識し、標的型攻撃対策の必要性を強く感じるようになりました。

ウイルス対策ソフト、USB メモリの暗号化、PC ハードディスクの暗号化、IC カードによる PC ログイン等、これまでもさまざまなセキュリティ対策を実施してきましたが、日ごろからメディアでの報道やセキュリティ関連の展示会等からセキュリティ関連情報を収集してきた結果、「標的型攻撃対策に関してはパターンファイルではもはや追いつかない、ふるまい検知が必要」と思いました。

そこで、当初はネットワーク経路に設置するサンドボックス製品を検討しましたが、ネットワーク経路に設置する製品である以上、ネットワークそのものが止まってしまう可能性があるため、業務の効率化やシステムの安定稼働の観点から候補から外すことになりました。また、ネットワーク経路に設置する製品では USB メモリ経由でエンドポイントに侵入するファイルは検知できないことや、侵入から攻撃発動までの時差があるマルウェア等はサンドボックス製品では検知できないのではないかという不安もあり、エンドポイントでの対策を優先して考えるようになりました。

そんな中、学内常駐員から「エンドポイントでふるまい検知・防御する製品がある」と FFR yarai を紹介されました。今回の製品選定における最も大きなファクターとなったのは、FFR yarai の日本年金機構を狙ったマルウェア「Emdivi」のリアルタイムでの防御実績でした。純国産である安心感や、日本企業ならではの問い合わせ対応等のコミュニケーションの取りやすさも合わせて評価されました。その他、コスト面についても FFR yarai の教育機関向け特別ライセンス「アカデミック・ライセンス」費用が適用されたこともあり、このたび FFR yarai の導入が決定しました。

「FFR yarai」は、官公庁や重要インフラ企業での導入実績が豊富な標的型攻撃対策ソフトです。F F R I の独自開発技術「CODE:F」<sup>※1</sup>により、日本年金機構を狙ったマルウェア「Emdivi」（2015 年 6 月）やバンキングマルウェア「SHIFU」（2015 年 10 月）、ランサムウェア「TeslaCrypt（vvv ウイルス）」（2015 年 12 月）、不正送金マルウェア「URLZone」（2016 年 2 月）、ランサムウェア「Locky」（2016 年 2 月）、ランサムウェア「PETYA」（2016 年 4 月）、自動解析を阻害するマルウェア（2016 年 4 月）、不正送金マルウェア「Gozi」（2016 年 6 月）等も検知・防御できることが確認されています<sup>※2</sup>。

※1 パターンファイルに全く依存せず、マルウェアの構造や振る舞いを見て、マルウェアに特徴的な「悪意」を分析することにより検知・防御する技術。パターンマッチング技術では防御が難しい新種や改造されたマルウェアであっても、マルウェアに共通する「悪意」を検知して防御することが可能。

※2 マルウェアには多くの亜種<sup>※3</sup>が存在しており、今回の防御事例はそのすべての亜種を検知・防御可能であることを保証するものではありません。

※3 オリジナルのマルウェアを元に機能や構造を一部変更するなどして新たに生み出されるマルウェアのこと。最近ではサイバー攻撃者向けにマルウェア作成ツールが出回っており、このツールを使用することで簡単にマルウェアを作成できる状況にあり、マルウェアの数が急激に増加しています。

青山学院ではサイバーセキュリティの脅威動向に合わせ、今後も「本学のシステムに合致するものでセキュリティホールが一番少なくなるものはどれか？」という考え方のもとセキュリティ製品を選定し、セキュリティ対策の強化を検討していく予定です。

F F R I は攻撃者の思考を先読みし、サイバーセキュリティ上の未知の脅威に対抗するプロアクティブな研究開発体制を構築しております。今後も研究開発の知見とノウハウを活かし、企業の経営戦略に合致した製品やサービスを提供し、健全な IT 社会の発展に貢献してまいります。

## 製品名称

FFR yarai

<http://www.ffri.jp/products/yarai/index.htm>

## FFR yarai 防御実績ページ（防御した攻撃・マルウェア一覧）

[http://www.ffri.jp/products/yarai/defense\\_achievement.htm](http://www.ffri.jp/products/yarai/defense_achievement.htm)



## 関連ページ

学校法人青山学院様 FFR yarai 導入事例

[http://www.ffri.jp/assets/files/products/exp/yarai\\_aoyama\\_gakuin\\_university.pdf](http://www.ffri.jp/assets/files/products/exp/yarai_aoyama_gakuin_university.pdf)

## 【FFRI の独自技術「CODE:F」による多層防御で未知の脅威から防御】



## ■ 青山学院について

学校法人青山学院様は 2014 年の創立 140 周年を機に、150 周年への更なる飛躍に向けて「AOYAMA VISION」を策定し、「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーの育成」を掲げました。ビジョンの実現に向けて、3 つのテーマである「オール青山による個に応じた成長支援」「世界と地域に開かれた学院」「卓越した知を創造する研究共同体」を実現するために核となる 7 つのアクションに取り組んでいます。

## ■株式会社 F F R I について

当社は 2007 年、日本において世界トップレベルのセキュリティリサーチチームを作り、IT 社会に貢献すべく設立されました。現在では日々進化しているサイバー攻撃技術を独自の視点で分析し、日本国内で対策技術の研究開発に取り組んでいます。研究内容は国際的なセキュリティカンファレンスで継続的に発表し、海外でも高い評価を受けておりますが、これらの研究から得られた知見やノウハウを製品やサービスとしてお客様にご提供しています。主力製品となる、「FFR yarai」はミック経済研究所調べ<sup>※4</sup>によるエンドポイント型標的型攻撃対策分野における出荷金額において No.1 を獲得しております。

※4 出典：「情報セキュリティソリューション市場の現状と将来展望 2015【外部攻撃防御型ソリューション編】」

**本件に関するお問い合わせ先**  
写真・資料等をご入用の場合もお問い合わせください。

**株式会社 FFRI**  
経営管理本部 経営企画部 I R 広報担当  
TEL：03-6277-1811  
E-Mail：[pr@ffri.jp](mailto:pr@ffri.jp) URL：<http://www.ffri.jp>

「F F R I」、「FFR yarai」は、株式会社 F F R I の登録商標です。

その他すべての社名、製品・サービス名は、各社の商標または登録商標です。

出典資料の引用等、調査会社の著作物を利用する場合は、出典元にお問い合わせください。